



本会記事

■広報委員会だより

『第4回おもしろ科学教室』での展示・実演活動

広報委員会では、小中学生ならびに保護者を対象とした科学啓発活動に力を入れており、年2回のプラズマや核融合に関する展示・実演活動が恒例行事となってきました。今回は、寒さも本格化し始める成人の日1月9日(祝・月)、「第4回おもしろ科学教室」(名古屋大学東山キャンパス)に共同主催で参加しました。本教室は、小学生を対象とした教室で、講演会、4つの工作教室、各団体の展示ブースから構成され、定員(今回は180名)に対して倍近い応募がある人気の教室です。本学会は第1回目から参加していますが、抽選のためか、初参加の小学生が大半のようでした。

本学会は、会場入り口前のスペースにおいて、以下の展示を行ってきました。

- 超伝導磁気浮上列車による超伝導現象の実演(写真1. リニアモーターカーの仕組みを利用した超伝導現象の実演。磁石の上で浮いた列車は、逆さにしても落ちず(ピン止め効果)、驚きと感動で参加者を魅了)
- 注射器火花放電装置による火花放電の体験(注射器の

ピストンを引いて内部の圧力を下げると、数kVの電圧が印加された内部の電極間で大きな音と共に火花が発生。小さいながらも迫力満点)

- プラズマボール(写真2. かざした手にプラズマの光跡が集まり、参加者も興味深々)
- 大気圧プラズマジェット「口から火を噴くぬいぐるみ」(写真3. プラズマに触れる体感型。かわいいクマのぬいぐるみの口からプラズマジェットが出てきて参加者もびっくり。今回は、ぬいぐるみ仲間も増やしてパワーアップ)
- 人工ダイヤモンドによる氷切断の体験実験(写真4. 手で温めたダイヤモンドを氷にあてると、接触面から氷が溶ける。力を入れずとも氷が切れる様は、まるで豆腐を切るようで、世界一の熱伝導率を実感!)
- 「はかるくん」による自然放射線の測定(写真4. 身の回りの物(御影石、キャンプの灯に使うトリウム入りランタン、医療用カリウム入り塩、湯の花)からでる自然放射線を測る)
- 霧箱(写真5. クヌーセン石から出る飛行機雲のような自然放射線の飛跡を観察。最初は少し怖々と近づいてくるお子さん・保護者の方も、霧状の飛程が見える

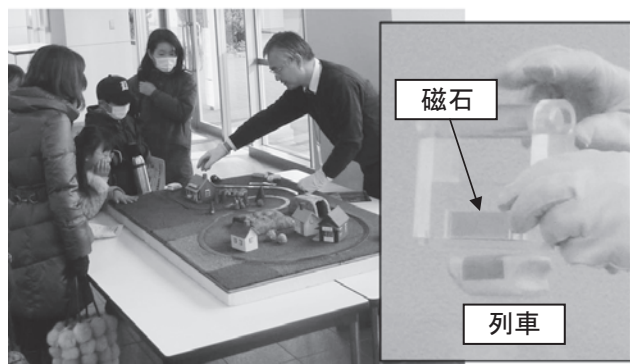


写真1: 町の模型内を走る磁気浮上列車(左). 列車を逆さにしても落ちません(右).

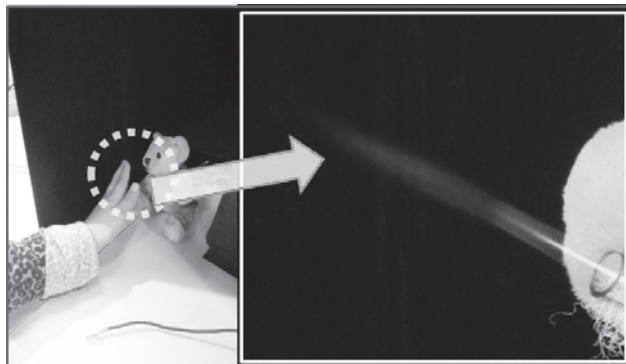


写真3: ぬいぐるみの口から出てくる大気圧プラズマジェットに触れます。



写真2: プラズマボールに触ってみる。



写真4: ダイヤモンドで氷をスルーっと、切る、と「はかるくん」で自然放射線の測定。

と興味深く観察)

- 広報委員会で作成した小中学生向けプラズマ・核融合学習パンフレットの配布ならびにクイズを実施(写真5. 小学生の兄妹と一緒に来ていた幼稚園生も頑張ってチャレンジ)

今回の展示にあたり、高井吉明先生、一野祐亮先生、大野哲靖先生をはじめとする会場スタッフの皆様には、準備から当日の運営まで大変お世話になりました。また、イベント当日の展示品については、核融合科学研究所、大阪大学、日本原子力研究開発機構、公益財団法人日本科学技術振興財団に協力をいただきました。これら関係各所に記して謝意を表します。本イベント開催までの準備と当日の説明対応には、プラズマ・核融合学会広報委員会から、坂本慶司広報委員長、西村新常務理事、北野勝久委員、中村圭二委員、日渡良爾委員、水口直紀委員、大阪大学の安藤あゆみさん、さらに事務局の杉山さん、石山さん、並びに柏木があたりました(写真6)。

今回もたくさんの小学生、保護者の方々に展示ブースに来ていただき、成功裡に終わることができました。小学生からは、「なんで?」「どうして?」の質問から、「科学者になりたい」「理科が好き」などの話まで出て、たくさんの会話と共に活気ある展示となりました。また放射線に関する展示では、身の回りや自然界に存在する放射線を目に見える形にすることで、放射線への理解が進んだのではと感じました。このような形態の広報活動を継続していくことで、理科教育、さらには本分野への興味・理解を深めていただく機会を増やしていきたいと思います。今後とも、引き続き、本学会会員の皆様方からのご協力をお願い申し上げます。

(本学会広報委員会幹事 柏木美恵子)



写真5：暗箱の中の霧箱をみる(左)、とクイズに答える参加者(右)。



写真6：本学会からの参加メンバー「お疲れさまでした」。